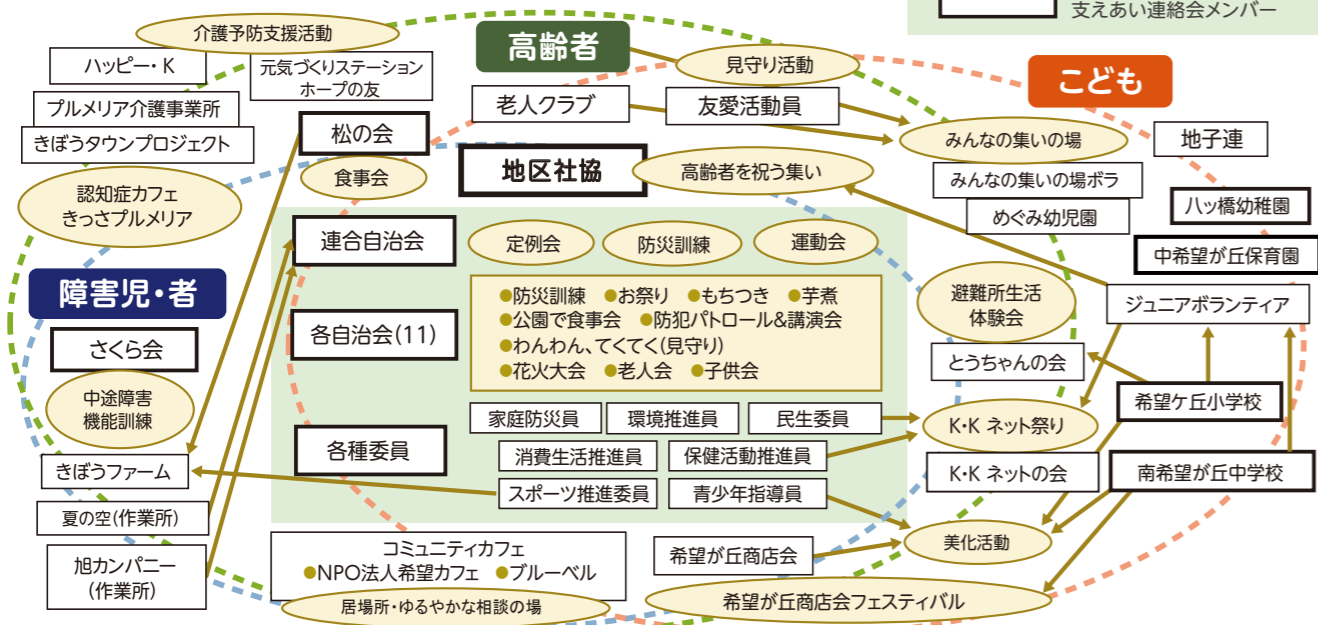


第3期の振り返り

希望が丘地区活動のつながり図

希望が丘地区の活動の確認やつながりについて共有しました。



地域福祉保健施設の分布

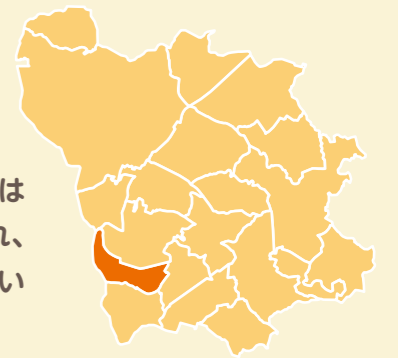


施設リスト

- 子ども施設**
 - ① 認可保育所 中希望が丘保育園
 - ② 夢のつぼみ保育園
 - ③ 横浜あさひ中央保育園
 - ④ 認定こども園 やつはしキッズ
 - ⑤ プラス保育園
 - ⑥ ハニービー保育園
 - ⑦ タドラーキッズ
- 高齢者施設**
 - ◆ 小規模多機能 居宅介護 プルメリア
 - ◆ 認知症対応型 共同生活介護 (グループホーム) ずうずう
- 障害者施設**
 - ◆ その他の施設 (通所、入所、障害児)
 - ① 【通】夏の空
 - ② 【通】旭カンパニー
 - ③ 【通】第二虹のかけはし

第4期 きらっとあさひプラン

希望が丘地区

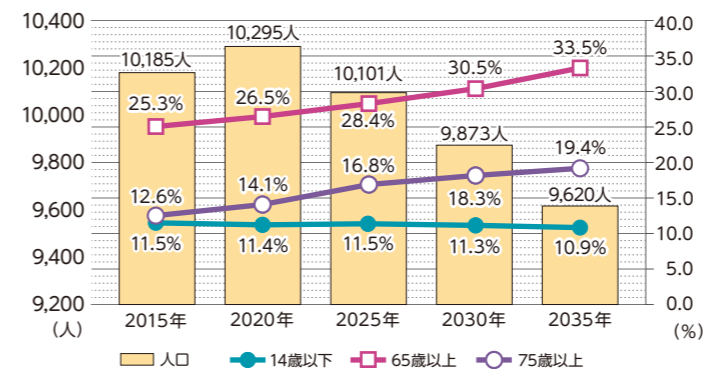


希望が丘地区は、東西にのびる、一連の丘陵地に開けた住宅地で、南部は南斜面、北部は北斜面となっています。駅周辺から放射線状に道路が整備され、商店会が形成されています。また、駅周辺は集合住宅が中心に整備されていますが、全体的には戸建て住宅が広く整備された地域でもあります。

DATA

将来人口推計

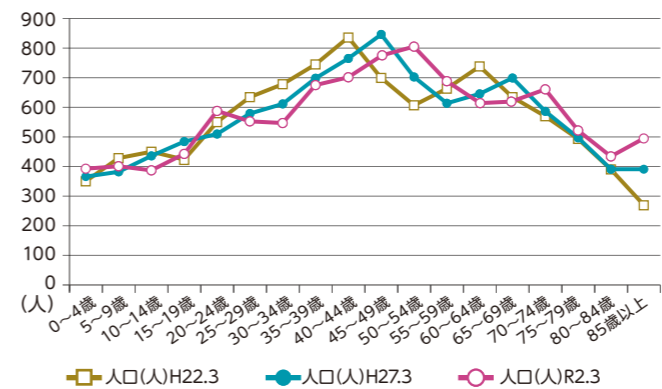
出典：横浜市統計ポータルサイト「町丁別世帯と男女別人口」(各年3月末現在)



将来人口推計は、2020年以降は減少が推測され、65歳以上の比率は2030年頃には30%を超えます。14歳以下の比率は、ほぼ横ばいに推移しますが、2035年に10%台になることが推測されます。

年齢5歳別人口の動向

出典：横浜市統計ポータルサイト(各年3月末現在)



平成22年には40～44歳であった5歳別人口数のピークは、令和2年には50～54歳となっています。また、平成22年・27年に比べて70歳以上の5歳別人口は増加しています。65歳以上の高齢者の割合は、平成27年には25.3%、令和2年には26.5%となり、高齢化が進んでいますが、区平均の29.2%はやや下回っています。

人口、世帯数、年齢別人口等の動向

	H22	H27	R2	H22～R2 増減数	H27 構成比(%)	R2 構成比(%)	R2 区平均 構成比(%)
総人口(人)	10,138	10,185	10,295	157	100.0	100.0	100.0
0～14歳(人)	1,225	1,173	1,178	▲47	11.5	11.4	11.6
(内0～6歳)(人)	521	510	549	28	5.0	5.3	4.9
15～64歳(人)	6,566	6,440	6,386	▲180	63.2	62.0	59.2
65歳以上(人)	2,347	2,572	2,731	384	25.3	26.5	29.2
(内65～74歳)(人)	1,199	1,290	1,284	85	12.7	12.5	13.2
(内75歳以上)(人)	1,148	1,282	1,447	299	12.6	14.1	16.0
総世帯数(世帯)	4,745	4,867	5,077	332	-	-	-
平均世帯規模(人/世帯)	2.14	2.09	2.03	▲0.11	-	-	2.13

出典：横浜市統計ポータルサイト「町丁別世帯」、「町丁別年齢別男女別人口」(各年3月末現在)

※人口・世帯数の数値は町丁目単位での集計のため、町丁目地区をまたぐ等により、実際の数値と一致しない場合があります。

私たちが描く地区の未来図

『世代や環境を超えて コミュニケーションが 自然と生まれるまち』

地域住民が、いかなる時も世代や環境が違ってもお互いを理解し、コミュニケーションが自然と生まれることにより、つながりや助け合いのあるまちづくりを目指します。

目標と主な取組

目標 A 地域全員参加の支え合いのあるまちづくり

きらっとあさひプラン「地域福祉保健計画」を知る→具体的な活動→変化を感じる

④ きらっとあさひプランの周知

- ▶自治会や各種団体、学校関係や保育園など、定例会や集まりがある時、また「お便り」等で周知し、活動に参加する人を増やす。
- ▶第4期きらっとあさひプランのリーフレットを全戸配布する。

④ 支えあい連絡会運営見直し

- ▶子育て世代や、取り組みによる新たな参加等、メンバーの見直し。
- ▶より多くの方が連絡会に参加できるよう会議体の見直し。
- ▶2年交代体制に伴う、引継ぎ実施の徹底。

④ 定期的な現状調査

- ▶定期的に現状調査を行い、地域住民のきらっとあさひプランの把握度や、取組の変化を感じているかなどを分析し、次のアクションを考えていく。

目標 B つながりのあるまちづくり

お互いがあいさつをし、地域の集まりで知り合いを増やし、誰もが交流できる機会をつくる

④ 既存の活動の継続と更なる広がり

- ▶お互いが積極的に挨拶をするオアシス運動の更なる推進。
- ▶自治会や商店会などでの地域清掃を継続し、更なる広がりや、近隣の知り合いを増やす。
- ▶子供会、老人会のない自治会からでも参加できるような働きかけ。



▲地域清掃

④ 地域の集まりでの多世代交流

- ▶防災に向けた近隣とのつながりづくり。▶健康チェックの開催。
- ▶運動会や防災訓練への積極的な参加。

④ 身近なことから生まれるつながり

- ▶犬の散歩や家庭菜園など、趣味や特技などでつながる関係づくり。
- ▶少人数や短い時間でも誰もが気軽に立ち寄れるゆるやかなサロン(地区センターや公園など)を増やす。



▲防災訓練

目標 C 助け合いのあるまちづくり

誰もが安心してらせるような助け合いのあるまちづくり、支援の輪を広げる

④ 既存の活動の継続と更なる周知

- ▶K・K ネットの会、松の会、さくら会、きぼうファーム、ジュニアボランティア等の活動の継続と広報活動。



▲きぼうファーム

④ ちょっとした困り事を地域で解決

- ▶高齢・障がい・子育て等において抱えるちょっとした困り事のお手伝いや声掛け等をするボランティア団体の仕組みづくり。



④ 現状把握と相談窓口等の周知

- ▶定期的に現状調査をし、困っていることや不安なこと等地域の現状を把握する。
- ▶要援護者・支援者アンケートの新たな活用。
- ▶相談ダイヤルなど課題別の相談窓口一覧を作成し、周知する。

目標 D 新しい仲間、新しい生活へのまちづくり

多様な人が一緒に暮らすことができ、コロナ禍でも安心して暮らせる新しい生活

④ 多様な人が住みやすいまちに

- ▶地域の様々な活動や利用できる制度等、地域に住んでいる多様な人への情報発信。
- ▶転入先や外国籍の方などに向けた、自治会・町内会の勧誘、防災、ゴミ分別等の周知チラシを配布。

④ 新しい生活様式と新しい人とのつながり

- ▶既存のものと新しいものが混在(回覧板/ICT化等)した自治会・町内会の運営を推進。
- ▶コロナ禍で集まるのが難しい中、書面やメールなどの活用、人数を限定する会議など新しい生活様式を取り入れ、新しい人とのつながりを育む。

④ 新しいコミュニティの形

- ▶コロナ禍で集まりや行事が制限される中、新しいコミュニティを創造していく。(小学生までを対象にぬりえ大会の開催等)



▲ぬりえ大会

推進体制

希望が丘地区支えあい連絡会… 地区社会福祉協議会、自治会・町内会、民生委員児童委員協議会、子供会、老人クラブ、保健活動推進員、消費生活推進員、友愛活動推進員、スポーツ推進委員、青少年指導員、PTA、学校、幼稚園、保育園、福祉・保健施設、ボランティアグループ

地域の方へのメッセージ

地域で支えあい、安心して暮らせるまち希望が丘を目指し、一緒に推進して行きましょう。